



病と闘う子どもと家族のサポートハウス

パンダハウス

News Letter

実行 認定特定非営利活動法人
 パンダハウスを育てる会 事務局
 TEL&FAX 024-548-3711
 〒960-8157 福島県福島市蓬萊町八丁目15番地1
 E-mail office@pandahouse.org
 HP http://pandahouse.org
 blog http://pandahouse.sblo.jp
 facebook https://ja-jp.facebook.com/npo.panda.house

正会員数:54人 7団体 賛助会員:324人 48団体 (H26.9.30現在)

2015年6月 VOL.3



理事長あいさつ

理事長 山本佳子

皆様のご寄付によって建設されたパンダハウスは、福島県立医科大学附属病院で闘病中の子どもや家族のための「病院近くの我が家」として18年目に入りました。その間のご利用は、延べ23,896名の方々に及びます。

会員の方々の支えやボランティアさんの日々のお働きのおかげで、時には驚かれるほどの居心地良いハウスに成長してきました。

昨今の利用希望の増加に伴い、一昨年(平成25年)からは、増改築の準備を進めてまいりましたが、平成27年5月現在で、4,000万円のご寄付をいただくことができました。皆様のおかげと深く感謝申し上げます。ただ、こうしている間にも、今の状態では継続して使えないからと、アパートの契約をせざるを得ない方がいらっしやったり、外泊をあきらめる方がいらっしやったりすると何うと、気持ち焦ります。早速、増築について具体的な歩みに入っているところです。

昨年(平成26年)国は、小児慢性疾患患者さんの自立支援事業を都道府県に指示しました。また、福島県はがん対策の推進に関する条例を出し、患者さんたちが安心して暮らせる社会の実現を宣言しています。

子どもたちは、未来への可能性に富み、明日の世の担い手です。闘病後、社会に戻っていく子どもたちやそのご家族に目を向け、心を寄せ、応援していくことは、私たち大人の務めではないでしょうか。彼らの孤独になりがちな闘いを、多くの



皆様に知っていただきエールを贈っていただきたいのです。

そこで、今年度は、うつくしま基金をいただいて、ハウスのご利用者が多い会津地区(喜多方)・郡山・いわきで「病気の子どもとその家族を知り共に支え合うやさしい福島にしよう!!」と題して、闘病中の子どもやご家族のことを知ってもらえるようなシンポジウムとコンサートを開きたいと思っています。

そして、「大変な時こそ、最高の環境で」を実現できるように、パンダハウスを育てる活動を皆様の手で、守り、育てていただきたいと思います。

引き続き、皆様の熱い応援をよろしくお願いいたします。お一人お一人のお気持ちの積み重ねを、闘病中の子どもやご家族に、当会は確実に届けていきます。

一緒に活動をしてくださるボランティアさんも随時募集中です。多くの人々の手で、増改築を実現し、福島での闘病体験が悔しいだけの体験にはならないように、ひとりぼっちの孤独に陥らないように、この活動に関わるひとりひとりの方々にとって絆のリレーになっていくように祈っています。

今後とも、よろしくお願いいたします。

平成27年度 うつくしま基金助成事業

病気の子どもとその家族を知り共に支え合うやさしい福島にしよう!!

シンポジウム・コンサート

経験者、医療者の話を聞いていただき、そして、音楽をご堪能ください。入場料無料です。皆様のご参加をお待ちしております。

平成27年7月4日

大和川酒造 北方風土館
昭和蔵(喜多方市)
コンサート:より子、井上仁一郎

平成27年8月29日

創空間 富や蔵(郡山市)
コンサート:音速ライン

平成28年3月13日

いわき明星大学
児玉記念講堂(いわき市)
コンサート:いわき明星大吹奏楽部

パンダハウスの一層の充実を願って

社会福祉法人 福島市社会福祉協議会
会長 金子 與 宏



私たちを取り巻く環境は、少子・高齢社会の進展、核家族化の進行、扶養意識の変化、そして地域における相互扶助機能の弱体化などにより大きく様変わりしており、地域住民の社会福祉に対する需要は増大かつ多様化し、より一層の施設福祉・在宅福祉の充実が求められております。

さて、医療に目を向けてみますと、我が国における医療レベルは世界で最も進んでおり、かつては助からなかった命を救うことが可能になってきました。しかし、重い障がいが残ることや、退院後も日常生活に大きな支障を来すケースも増加しております。

その中でも、医療依存度の高い子どもは全国で20万人を超えと言われており、小児がんや重い病気と闘っている子どもたちは、入院生活が長期間にわたることも多く見られ、子どもたち自身はもとより、子どもを支える家族にとっても、大きな重圧となっていることと存じます。

こうした中「認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会」におかれましては、平成9年10月に「パンダハウス」を開所以来今日までの18年間にわたり、福島県立医科大学で開病中の子どもやご家族に、安心して治療に専念できるよう

「我が家」を提供されてこられたことに対し、深く敬意を表すところであります。

命を脅かす病気と闘いながらも幸せに生きること、障がいがあっても質の高い生活を送れることはとても大切なことであり、子どもたちが病気を忘れて遊ぶことができ、家族が安心して休息ができる住まいは必要不可欠であると存じます。

パンダハウスにおかれましては現在利用者の増加と併せて、より質の高い長期間滞在が可能な住まいの提供のため、平成28年の増改築を目指して頑張っておられますが、この取り組みは命をつなぐ親子にとって生きる勇気と希望をもたらすものと確信しております。

尚、パンダハウス支援の輪が、福島県立医科大学病院様を始めとする関係者並びに地域有志の方々に、更に広く強力に広がることを切望して止みません。

山本理事長様をはじめとする役員の方々の皆さま、スタッフの皆様におかれましては、大変ご苦労がごありのことと存じますが、地域の皆様方のご理解とご協力をいただき一日も早い完成を願うところでございます。

平成26年度 パンダハウス稼働状況

オープンから現在までの利用者数
(H9.10.10~H26.9.30)

家族数	4,036家族
延べ人数	23,896人

平成26年度利用者数
(H25.10.1~H26.9.30)

家族数	329家族
延べ人数	1,879人
稼働率	102%

地域別家族数



利用者の声

前回の時も大変お世話になりましたが、今回もまた利用させて頂いて本当に助かります。金銭的なことでもあります、医大からも近いので子どもを入院させている身としては、本当にありがたいです。子どもの入院生活が長引くとどうしても食生活が乱れてしまうので、パンダハウスの台所を借りて料理ができるのが良かったです。もう少し部屋の数が多ければいいのかなと思います。いつもあたたかく迎えてくれるスタッフの方には感謝でいっぱいです。ありがとうございます。

大変お世話になりました。ホテルに泊まった時は眠れなくて、身体も少しきつかったのですが、パンダハウスは自分の家のような感じで、安心してぐっすりと休むことができ、疲れがとれて、毎朝病院の子どものところへ向かうことができました。また、一緒に泊まっている方々と仲良くなり、一晩だけ皆で食事会をし、大変さや喜びを一緒に分かち合うことができ、とても嬉しかったし、楽しかったです。

3歳の長女の心臓の手術ということで、お兄ちゃん達と家族4人で利用しました。朝から丸半日、病院のイスに座り待っていたので、疲労もたまっていました。5時間に及ぶ手術も無事終わり、パンダハウスに到着。カワイイ外観に、中に入ったら、我が家に帰った気分になるほど落ち着いた雰囲気、本当にホッとすることができました。おもちゃも沢山あるし、キッチン、洗濯機など自由に使い何不自由なく2日間過ごす事ができました。本当にありがとうございました。





第3弾(H26.5.23)
会津医療センター・チャリティバザー

増改築 イベント報告

会津・いわきで応援の
輪がひろがりました



第6弾(H27.3.7~8)
いわき鹿島ショッピングセンターエブリア
未来をつなぐ子ども達応援の輪(絵本読み聞かせ)



第4弾(H26.9.19~21)
いわき鹿島ショッピングセンターエブリア
未来をつなぐ子ども達応援の輪



第5弾(H26.10.31)
会津医療センター・チャリティバザー



第7弾(H27.5.15)
会津医療センター・チャリティバザー

H27年 活動紹介(予定)

- | | | | |
|------------------------|----------|----------------------|--------|
| ● クリスマスプレゼント作成 | 8月~12月 | ● JHHHネットワーク会議【札幌】参加 | 10月 |
| ● パンダハウスを知ってください(活動紹介) | 8月17~20日 | ● 第5回通常総会 | 11月21日 |
| コラッセふくしま アトリウム(1階ロビー) | | ● 花植え | 5月・11月 |
| ● リレーフォーライフ参加(あづま体育館) | 8月22・23日 | ● バザー(福島医大病院) | 8月・12月 |
| ● いわき鹿島ショッピングセンターエブリア | 9月5・6日 | ● バザー(会津医療センター) | 5月・10月 |
| ● 健康フェスタ2015参加(AOZ) | 9月27日 | ● イオン黄色いレシートキャンペーン | 毎月11日 |

あなたの回復に祈りをこめて

ボランティア 小室文江

永らく病院に勤めて、無味乾燥な入院生活や疲れても休む場所のない家族の姿に心の痛む日々でした。この山の上でちょっとしたホテルを運営してくれる人がいたらいいね、と同僚と話をしながらも力の無い悲しさで思うだけに終わっていました。そのような時に「パンダハウス」が具体化されたことを知り、感激とそしてそのパワーへの鮮烈な驚きに思わず飛び上がってしまったほどです。時を経て短時間ながら定期的に関わる中でこの運営に寄せられる多くの方々の善意と様々な提供の仕方を見ることができ、ただただ頭の下がる思いでいっぱいです。

病気になる辛さには孤独感も含まれるでしょう。病気の身代わりはできません。どんなに愛し合っているかわかってもらうことはできない、自分で戦うしかありません。代わってあげたくても出来ない家族も同じ思いでしょう。孤独感はそのだけで人を消耗させます。このような辛く苦しい闘病生活を送る患者さんや家族のエネルギーを損なわない為に何が出来るか考えると無力感に苛まれま

すが、せめてひと時でも日常の平安を取り戻しホッと気持ちの和む場があつてまた活力が湧きリセットできるような環境の整備が出来れば、と心がけています。加えてできるのは祈ることでしょうか。人という字は支え合っている形、支え合っているのは安定した状態といわれます。「いろいろな人が病気のあなたや家族を応援して支えたいと思っていますよ。見守っていますよ」と、元気になるよう祈りを込めて通っているところです。病むことは決して人ごとではないのですから…。

運営には大きな力が必要ですが小さな力も集まれば大きな力になります。活動への理解が深まる意義はむしろそこにあるでしょうか。私の友人は、体力がないのでバザーでいろいろ買うことで役立ちたいと言って待っています。少しずつ多くの方が的確で無理なく続けられる方法で参加していただければと思います。私事ですが、長く関わるために生活を整え健康に留意するようになるという思わぬ二次的効果に感謝しています。



